

## 1

## 溶接技能者教育委員会

## 1.1 設立の背景

東京五輪開催に向けた会場設備工事に加え、民間ホテルの新築、増改築や都心の再開発、交通インフラの整備といった間接的な工事により溶接技能者の需要も高まっている。

一方、高齢化や労働人口の減少も手伝って溶接技能者数の不足が顕在化している。また、JIS溶接技能者評価試験の合格率（特に新規受験者）が年々大幅に低下しつつある。こうした現状を踏まえて、本会の理事会直下の諮問機関である総合企画会議では、2015年に溶接技能者教育WGを立ち上げ、溶接技能者教育事業の必要性と可能性の検討を行った。全国の指定機関からのヒアリングやJIS溶接技能者評価試験受験者へのアンケートの結果から、地方を中心に溶接技能者教育の機会が必ずしも十分ではなく、各種技能の指導者不足は

深刻化していると分析して、溶接技能者教育の必要性を確認した。国も造船分野、建設分野では技能者不足対策を開始しており、外国人労働者の活用を図っている。しかし、中長期的には日本人技能者の教育・養成が必要と考える。

教育の実施にあたって、溶接技能者に真に必要な知識を抽出したカリキュラムと教科書を検討するとともに、全国のポリテクセンターの施設を利用し、指定機関を窓口として講習の継続的な実施が効果的であることを判断した。教育事業を全国展開するに当たり、2017年に溶接技能者教育委員会を設立し、JIS溶接技能者評価試験とは独立して溶接技能者教育の企画・運営を担当することとした。

## 1.2 活動と運営

## 1.2.1 教材の開発

教育の実施にあたって、溶接技能者に真に必要な知識を抽出した学科講習会用テキスト「溶接検定受験者のための必読集」と講義で使用するパワーポイントを作成した。本教材を用いた講義を受講し、修得度確認試験で80点以上の得点を獲得した者については、JIS溶接技能者評価試験の学科試験を免除することとした。また、実技教育に関して、全国どの会場でも同じ講習内容になることを念頭に、講師向けの実技教育カリキュラムを作成した。初心者向けに溶接機の取り扱い方から検定課題のポイントまで押さえた内容となっている。



写真 1.1 溶接検定受験者のための必読集

### 1.2.2 溶接技能向上のための講習会

溶接技能者不足対策の一つとして、溶接技能をより多くの者に修得してもらい多能工化を図る目的で、2018年に溶接技能向上のための講習会を開始した。本教育は、技能と知識（学科）を効率的に短期間に修得するものであり、実技1日と学科1日で構成する教育コースである。また、学科のみの1日コースも用意している。学科講習終了後に実施する修得度確認試験で80点以上の得点を獲得した者に対しては、修了証が発行され、JIS溶接技能者評価試験の学科試験が免除となる。溶接技能者の技能向上・スキルアップのための要点を押さえたカリキュラムにより、分かりやすく受講者に好評を博している。

神奈川県を中心に栃木、群馬、静岡、宮崎と関東地区から全国で開催されるようになってきている。



写真 1.2 溶接技能向上のための講習会

### 1.2.3 中小企業等担い手育成支援事業

厚生労働省が実施する「中小企業等担い手育成事業（平成30年度～平成32年度）」の公募に対して、溶接技能者教育委員会では、建築鉄骨製造業に必要な溶接技能者を育成する教育計画を企画し、入札の結果、契約を締結した。

具体的には、日本溶接技術センターで行うOFF-JT訓練と各鉄工所で行うOJT訓練を組み合わせ、資格受験に向けた習熟確認試験や面談を実施した。2018年度は訓練生9名が建築鉄骨製作に必要なSA-2Fの資格を取得し、SA-3F・H、又はSA-2V・H資格の受験を目指して訓練を行い成果を上げた。

この実績が評価され、関東甲信越地区に続き、九州地区で本事業を展開することを提案した入札を行い、落札した。本事業を通じ地方での講師育成を推進することで、支援事業終了後も、持続可能な地方溶接技能者教育の基盤が構築されるものと期待する。



写真 1.3 学科講習修了証の授与



写真 1.4 事業所訪問指導



## 1.3 今後の展望

日本における溶接技能者教育に関しては共通の教育カリキュラムはなく、各地の訓練機関がそれぞれのニーズに合わせて適宜カリキュラムを作成し訓練を実施しているのが現状である。また、特定の資格取得を目標としたものも少ない。

当協会は2017年より溶接技能者教育に力を入れ始め、本事業により日本における溶接技能者教育を活性化できる。

一般的にはあまり認知されていないが、本来溶

接職は給与も比較的高く、一度溶接技能を修得すれば安定的な職業となるものであり、就業時間も安定しているため高い定職率が期待できる職種である。そのため、本事業を通じて溶接技能の有利さや大事さを周知できるものと考ええる。

結果、溶接技能者数の増加につながり、今後溶接技能者不足になることが懸念される建築鉄骨分野への優良な溶接技能者供給につながり、建築鉄骨構造物の品質確保が図れることが期待される。